

第 36 回小山市地域公共交通会議 議事要旨

■開催の概要

1. 日 時：2020.01.30 14:00～15:00

2. 会 場：保健福祉センター 旧たんぼぼ園

出席者：大久保（市長）、高橋、大山、中島、生沼、福島、小矢島、鉢村、後藤、磯田、岡田、清家、川中子、小幡委員代理（鈴木）、田村、岡野、永井、西堀、曾條委員代理（須賀）、谷委員代理（山口） 計 20 名

- 議 事：
- （1）国庫補助事業に係る事業評価について
 - （2）ハーヴェストウオークの定時定路線型乗合バスの運行について
 - （3）市民病院線について
 - （4）羽川線について
 - （5）公共交通副読本バスのこども無料券の対象拡大について
 - （6）その他

- 報告内容
- （1）マイナンバーカード所有者向け割引定期券（愛称：おーバス noroca）の販売状況について
 - （2）アフターDCに向けた臨時バスの結果報告並びに令和2年度の臨時バスの運行について

■議事要旨

（1）国庫補助事業に係る事業評価について

資料1-1、資料1-2に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

○今年度においては、バス車両に搭載した機械を用いた実績調査を元に、各路線の事業評価を行った。

○路線型で運行されている路線では、利用者数は目標を達成した一方で、収支率については昨年度からアップしているものの、車両の大型化等により経費が増加したため目標は達成できなかった。

○デマンドバスでは、目標は達成できなかったものの、各エリアで利用者の増加が見られた。

[主な質疑応答]

（委員）

デマンドバスの大谷中南部・間々田東部地区エリアから、デマンドバスを利用してしらさぎ館へ直接行けるようにしてはどうか。他地区とは異なり、路線型バスへの乗継ぎが必要になるので特にアクセスが悪く感じる。また、重要な公共施設であるしらさぎ館へのバスも今以上に増便を検討したらどうか。

→（事務局）

デマンドバスの延伸、ダイヤの組み直し等、対応を検討していく。

（委員）

区域運行のため、タクシー会社との競合なども踏まえて協議を進める必要がある。

→（事務局）

大谷中南部・間々田東部エリアでは、数年前にバスのエリア拡大を実施している。更なる拡大については、今後検討を進めていきたい。

（2）ハーヴェストウオークの定時定路線型乗合バスの運行について

資料2に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

○おやまゆうえんハーヴェストウオークを経営している（株）ザイマックスアルファと、（株）小山中央観光バスが運行・管理している小山駅からハーヴェストウオークを經由して小山温泉思川へ運行している無料シャトルバスについて、乗合バスとして運行したい旨の申し出があった。

○同シャトルバスは利用者増による慢性的な混雑を抱えており、老朽化した車両の更新に合わせて大型化を検討しているが、それに併せて定時路線型の乗合バスとして整理する。運行の詳細は以下の通りである。

- ・路線名称：ハーヴェストウォーク線（仮称）
 - ・運行時間：7時30分～22時30分
 - ・運行便数：平日2本／時、休日3本／時
 - ・停留所：市民病院線の若木町循環ルートの停留所を踏襲する
 - ・運賃：おーバス運賃に準ずる（他路線との乗継割引の適用や、回数券、定期券、norocaの使用も可能）。ただしハーヴェストウォーク乗降の学生は無料（詳細後述）。
- ハーヴェストウォーク側の要望により、従来では無料で利用できていた乗客のうち、ハーヴェストウォークで乗降する学生（中学生～大学生）は、学生証提示の上無料で利用できるものとする。
- 令和2年4月1日の運行開始を検討している。
- 運行開始にあたり、経路が重複する市民病院線若木町循環ルートは廃止する。これについては、同線を運行する友井タクシー(有)も了承している。

[主な質疑応答]

（委員）

これまで無料で利用できていたシャトルバスが有料になるということか、また、この運賃収入はどこが受け取るのか。

→（事務局）

路線化に伴い有料となってしまうが、学生については引き続き無料で利用できる。また、運賃収入は路線を運行するバス会社に入るが、バス会社は経費も併せて負担する。

（委員）

沿線利用者については新たに運賃負担が生じるが、市に対して不満が出るのではないか。

→（事務局）

これまでは途中停車なしでハーヴェストウォークに向かうシャトルバスだったが、今回の路線化により旧市民病院線の停留所からも利用できるようになるため、沿線利用者にとっては利便性向上となる。また、中高生については、シャトルバスと同様にハーヴェストウォーク乗降に限り無料で利用できるため、その点は従来と同様だ。

（委員）

一見、「無料のシャトルバスに小山市が介入して収益を得る」という様に見えるが、市民から不満が出るのではないか。また、市民病院線の若木町循環ルート廃止によってバス運行がなくなるルートがあるが、これらの利用者にはアンケート等で意見を伺ったりしているのか。

→（事務局）

有料化による収益は小山市ではなく運行会社に入るため、小山市が収益を得るものではない。また、運行ルートに関しては、城山町三丁目～小平産業前の区間を羽川線が同様のルートで運行しているためカバーできる。なお、この区間を現行の市民病院線から切り離すことによって、小山駅～新市民病院の区間の増便も実現できる。

（委員）

路線化や今後の運行に係る経費について、小山市は一切補助金等を出さないのか。

→（事務局）

停留所増設費用等の費用のほとんどは(株)ザイマックスアルファの負担となる。ただし、車両更新に係る車両購入費のみ市で負担する。今後の運行についても市は原則負担せず、路線が赤字となった場合にも補填は行わない。

（委員）

仮に利用者数が予想を下回り運行が厳しくなった場合、(株)小山中央観光バスが撤退を検討する様なケースは想定しているか。

→（事務局）

仮に赤字路線となった場合、運行会社の自己責任という形になる。将来的に他社が運行することになったとしても、原則として条件は変更しない。

(3) 市民病院線について

資料3に基づいて事務局より説明があり、特に質疑応答はなく、了承された。

- 沿線にて進んでいる神鳥谷ビレッジの宅地分譲に伴い、居住者の利用を見込んだダイヤ改正を行う。
- 今回の改正より神鳥谷ビレッジ内を経由するルートに変更、2つの停留所を新設する。併せて、運行時間帯を6時30分～22時10分まで拡大し、平日8往復のところ14往復に増便する（休日は6往復から12往復体制へ）。
- 同時に、ハーヴェストウオーク線（仮称）の新設に伴い、若木町循環ルートは廃止する。
- ルート変更にあたって、神鳥谷ビレッジ内の交差点は現行の車両が走行できないことから、使用車両を小回りのきく34人乗りの車両へ変更する（車両は新規で購入）。
- これらの変更に合わせて路線名を「新市民病院線」に変更する。

（4）羽川線について

- 資料4に基づいて事務局より説明があり、特に質疑応答はなく了承された。
- 羽川線で生じている慢性的な混雑を受けて、4月1日より車両の大型化を実施する。
- 現行は27人乗りの車両を使用しているが、市民病院線の車両変更により生じる余剰車（54人乗り）を転用して使用する。

（5）公共交通副読本バスのこども無料券の対象拡大について

- 資料5に基づいて事務局及び谷委員代理より説明があり、特に質疑応答はなく了承された。
- 現在、県内の小学校2年生に公共交通副読本を配布しており、おーバスの無料券を添付しているが、無料券の対象を拡大する。
- 現行では配布した年度の小学2年生、大人1人につき子ども1人分の運賃を無料としたが、改正案では配布した年度の小学生全学年が対象となるほか、大人1人につき子どもが2人まで無料になる。
- 利用回数は変わらないので、今回の対象拡大による運行上の収支にはないと思われる。これまでは対応できなかった、兄弟や双子のいる家庭などでも利用できる形としたものだ。

■報告事項要旨

事務局より以下の説明があった。

（1）マイナンバーカード所有者向け割引定期券（愛称：おーバス noroca）の販売状況について

- 令和元年9月25日より発行を開始した割引定期券（おーバス noroca）は、累計で168枚（令和2年1月29日時点）を販売している。また、令和元年12月単月では通常定期券の販売枚数（30枚）を上回る48枚を販売している。

（2）アフターDCに向けた臨時バスの結果報告並びにR2年度の臨時バスの運行について

- ①栃木ゴールデンブレース試合日における城東中久喜線の臨時便
 - 令和元年度で運行した同線の臨時便が好評であったため、令和2年度も試合日での運行を予定している。
 - 小山駅東口発は、試合開始時間の2時間前、1時間前に1本ずつ運行、復路は試合開始時間の2時間半後、3時間半後に1本ずつ運行する。
- ②栃木デスティネーションキャンペーンに合わせた道の駅線の臨時便
 - 利用者数の推移を見ると、臨時便運行日のみならず、運行終了後の平成30年12月～平成31年3月においても、いちごの里への利用者が前年より増加している。
 - これらの背景を踏まえて、令和2年度は5月の連休まで臨時便を運行する。また、予算残額により冬期（12月～3月のイチゴのシーズン）の運行も検討する。

（3）第9回 おーバス絵画コンテストについて販売状況について

- 幼児・小学生合わせて、昨年度を上回る866点の作品の応募があった。
- 11月23日、24日に道の駅思川で行った展示会では、2日間で396名の来場があった。
- 入賞作品は、1月10日までイオンモール小山2Fのフードコートで展示を行ったほか、県道263号線沿線の再開発整備現場でも、仮囲いを使用して展示を行っている。

[主な質疑応答]

（委員）

norocaの発行によって、利用者数や収支率にはどのような影響があったか。

→（事務局）

発行開始後まだ間もない段階なので、影響は今後の実績に現れると思われる。なお、

発行開始直後の10月度の利用者数では、前年から35%増加している。また、本定期券は割引率の大きいですが、収支率への大きな影響は生じないと考えている。

(以 上)